

地域連携室便り

愛媛県立中央病院
地域医療連携室

No. 26 (2022年7月)

直通TEL 089-987-6270 (前方連携)
089-947-1165 (後方連携)
FAX 089-987-6271



酷暑の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

地域連携室便り No. 26 7月 を刊行いたしました。気軽に読んでいただけるようにと考えておりますが、皆様方からのご意見をいただければ幸いです。聞きたいこと・知りたいこと等、ぜひお知らせください。この機会にぜひメール登録をよろしく願いいたします。

今回の内容

- ① 媛さくらネット～こんな風にお使いください～ 三好旭
- ② 新センター長紹介 井上武
- ③ 皮膚科の診療紹介 岡崎秀規
- ④ 第115回医療連携懇話会を終えて (前半) 二宮朋之
- ⑤ 医療安全コラム 森山昭子
- ⑥ 地域医療連携室からのお知らせ～メールのご登録のお願い～

① 媛さくらネット～こんな風にお使いください～ 地域医療連携室 媛さくらネット担当 三好 旭

平素は当院の地域医療連携ネットワーク「媛さくらネット」をご利用いただきありがとうございます。今回は媛さくらネットの活用方法についてご紹介させていただきます。媛さくらネット参加病院様で、当院の受診歴があり検査等で紹介予定のある患者さんがいらっしゃいましたら、同意書を取得していただきFAXしてください。当院担当者がFAXを確認し、診療情報の閲覧設定ができましたらご連絡いたします。受診歴がない患者さんでも来院予約ができましたら設定可能です。閲覧設定ができた患者さんの診療情報は、当院で更新されたものがリアルタイムで反映されますので、最新データを取得して閲覧してください。当院での検査当日にも診断結果をご確認いただけますので、これまで以上にスピーディーな医療情報連携が可能になります。また、DICOMデータのダウンロードにも対応したシステムになっております。

地域医療連携のさらなる増進のため、媛さくらネットへのご参加お待ちしております。

～媛さくらネットで 閲覧できる項目～

- ・処方 ・注射 ・検査
 - ・病名 ・各種画像
 - ・循環器動画
- (2021年11月1日以降の情報)
- ・放射線画像診断レポート
- (2022年3月1日以降の情報)



～媛さくらネットの使い方①～

今度検査ですね。
県立中央病院での
診療情報を見たいので同意書を
いただけますか？

かかりつけ医



わかりました。
先生にすぐ診て
もらえるんですね！

医療機関が
同意書を
FAX

愛媛県立中央病院



検査結果が出ているぞ。
画像もすぐ確認できるし、
今後の治療計画も立て
やすいな！

検査 当日

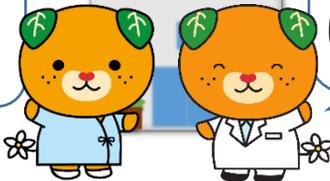
かかりつけ医



～媛さくらネットの使い方②～

以前、
県立中央
病院で
診てもら
いました。

かかりつけ医



媛さくらネットで
見てみましょう。
同意書をいただ
けますか？

医療機関が
同意書を
FAX

愛媛県立中央病院



その時の症状が
わかりました。
当院ではこう
しましょう。

かかりつけ医



自分で説明
するのは
難しいので
助かります！





② 新センター長紹介

画像センター長 地域医療連携室 副室長 井上 武

令和4年4月より画像センター長を拝命しました井上 武（いのうえたけし）と申します。PETセンター長、地域医療連携室副室長も兼任させていただいており、地域連携医療機関の皆様にはこれまで以上にお世話になることと思います。よろしくお願ひいたします。

私は道後中学校、松山東高校、愛媛大学と地元で学び、愛媛大学の放射線科教室に入局、愛媛大学大学院を卒業後は、松山市民病院、四国がんセンターで勤務。2011年に県立中央病院に入職しました。ほぼ松山で過ごしています。

私が放射線科医になった頃は、MRIはちょうど出始めたころ、CTは臨床利用されていましたが、ヘリカルスキャンはなく、胸腹部なら5秒程度の息止めで1スライス撮像、寝台が移動してまた5秒の息止め、1症例撮像に20～30分を要していました。主治医としてCTの予約を取ろうとすると1週間待ち。読影も1日にせいぜい30件程度で、上腹部だと20スライス。フィルム袋から取り出してシャウカステンに吊り、過去フィルムを隣に並べ、レポートは複写用紙に手書き。レポート1枚はカルテへ、1枚はフィルム袋へ、もう1枚は読影室でファイリング。立って読影、座ってレポート記載を繰り返していました。1日で読影する断層画像はせいぜい500スライス程度。それが今ではおよそ30～40倍の断層画像を読影しており、隔世の感があります。

1999年から2011年まで四国がんセンターで悪性腫瘍の画像診断に研鑽しました。特に2006年に四国がんセンターの移転に伴って、新たに導入されたPET-CTを立ち上げから担当し、今でもPET-CTの読影を主業務としています。

さて、県立中央病院では愛媛県の救急疾患の最後の砦だけあって、非常に多くの救急疾患の画像を目の当たりにします。それまでは教科書や文献でしか見たことのない様な画像を読影する緊張感は当院ならではの毎日感じています。また、当院は地域がん診療連携拠点病院であり、愛媛県では最多のがん患者の診療に携わっており（県内拠点病院がん登録件数調べ）、がんの画像診断も本当に多くの症例を経験させていただいております。教育的症例も無数にあり、研修医や若い専攻医のためにティーチングファイルの作成に日々励んでいます。

画像センターでは3台のCT、3台のMRI、3台の血管造影装置、2台のPET-CT、2台のRI、ほか多くの先進的画像機器がフル活動しています。地域連携医療機関の皆様にも、取り敢えず画像とレポートが欲しい症例に関して、地域医療連携室にご連絡ください。放射線科外来で撮像、画像診断医2名によるダブルチェックのレポートを添付してその日のうちに（PETでは原則翌日）お返しします。

一人でも多くの患者に良質な画像を提供し、より正確な診断に到達できるように、画像センターでは総勢約70名のスタッフが日々真面目に取り組んでいることを誇りに思っています。地域連携医療機関の皆様には今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

③ 皮膚科の診療紹介

皮膚科 主任部長 岡崎 秀規

平素より地域の先生方にはたくさんの患者さんをご紹介いただきありがとうございます。
皮膚科は現在4人体制で診療を行っております。ここでは皮膚科の診療についてご紹介させていただきます。

① どんな診察をしているか

皮膚科では形態をみて診断していくという視診が主体となります。スナップショットでみた皮疹像・分布と、個疹の特徴を頭の中で絵合わせをして疾患分類していくという作業です。皮疹の形態は発症からの時間、受けた治療、皮疹の部位・環境などによって変化します。つまり同一疾患であっても形態にバリエーションがでてきます。典型像でない場合、よく診て皮疹の特徴となりうる所見を探し、触って炎症細胞の浸潤と病変の主座を判断し、かゆみ・疼痛・圧痛などを確認、これまでの治療、経過の問診をさらにを行い鑑別疾患を考えていきます。このような診察を行い、必要症例には血液検査、画像検査などを追加するという流れになります。これらの診察で診断困難なケースはより情報を得るために皮膚生検を行うこともあります。皮膚科の視診に関してはダーモスコープという特殊な拡大鏡を用いた検査（ダーモスコピー）もあります。これは色素細胞性母斑など色素性病変を中心に行うものになりますが、皮膚表面の光の乱反射をカットして観察することにより、表層の色素パターン認識だけでなく、やや深部の病変のパターンも把握できるというもので良性悪性の判断にも有用です。

② どんな治療をしているか

「ステロイドと抗真菌剤の外用と抗アレルギー剤内服でしょ？ぱっと診て薬だしてハイ終わり！」とお思いの先生もいらっしゃるかと思います。確かに外用治療は治療の主軸で欠かすことはできませんし、外用のみで治癒するような皮膚疾患も多くあります。ただ、皮膚科の治療も進歩しておりまして状況は変化しつつあります。例えば、ステロイド外用剤の使用方法について使用量や外用頻度に関してよりエビデンスをもった方法が提示されています。1FTU (finger tip unit) という単位を用いた外用量の指導（人差し指の先端から第一関節までチューブから絞り出した量が約0.5g＝手のひら二枚分の外用量）、寛解導入・寛解維持療法、プロアクティブ・リアクティブ療法、short contact therapyなどはここ数年で広く用いられるようになった外用剤の使用方法です。使用方法を適切な形に改善するだけで難治であった症状が寛解に至ることも少なくないのでこの辺りの指導はとても重要です。当科でも必要症例には時間をかけて説明を行っています。

ステロイド以外の抗炎症作用を持つ外用剤としてタクロリムス、JAK阻害剤、PDE4阻害剤といった新規薬剤が出てきています。これらはステロイドにあるような局所副作用が少ないので使いどころが多くあります。

内服ではシクロスポリン、メトトレキサートなどの免疫抑制剤もよく使用されます。最近トピックになっているのはJAK阻害剤というアトピー性皮膚炎に適応のある新規薬剤でしょうか。よい薬剤ですがそれなりに免疫抑制作用があるのと薬価が高いのが難点です。

他に新しい薬といえば生物学的製剤（注射薬）があります。乾癬という皮膚病に対しては3系統11種類！の製剤がラインナップしています。治療効果は高いですが、薬価も高いという問題があります。皮膚病に対してその額は・となる患者さんも多いのが実情です。投与開始には施設要件や副作用の管理、定期的な検査の必要などもあり当院のような総合病院で導入していくこととなります。そのほか、アトピー性皮膚炎や慢性蕁麻疹にも有効な生物学的製剤がありますがやはり薬価がやや高いという問題があります。

皮膚科ならではの治療として紫外線療法があります。日焼けサロンにおいてあるような蛍光灯がたくさんついている機器で病変皮膚に光をあてます。紫外線には皮膚の免疫反応を抑制し、掻痒感を軽減するような作用があり、炎症性の皮膚疾患に効果があります。現在はナローバンドUVBという特定のUVB波長を照射できる機器が広く用いられています。当院では広範囲照射、狭範囲照射の二台の機器を備えて治療を行っております。

当科は皮膚科以外の先生方からも多くご紹介をいただいております。ご紹介内容としては「近くの皮膚科さんに通院していますが難治なので」「患者さんの希望で」「良く分からない皮疹が続いています。薬剤性でしょうか？」などなど様々にいただきますが、もちろん大歓迎です。比較的軽症の状態でもいろいろな理由で治りにくくなっていることもあります。一度ご紹介いただければこれまでと違った切り口で評価して解決に導くことができるかもしれません。今後ともご紹介のほど、よろしく願い申し上げます。

④第115回医療連携懇話会を終えて（前半）

地域医療連携室長 二宮 朋之

「県立中央病院をまるごと ご紹介します」をテーマに第115回医療連携懇話会が6月8日に開催されました。会場参加70名、web参加35名で計105名の方にご視聴いただきました。

昨年はCOVID-19の診療のため、6か月半にわたり手術、入院ともに3割減を主体とした診療抑制を行い、地域の先生方に非常にご迷惑をおかけしました。現在、COVID-19に対して準備病床があり、全てのベッドが戻っているわけではありませんが、先月より手術等の制限を解除し、診療機能が戻りつつあります。今年度はできるだけ診療抑制をせずに乗り切っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

今回は中央病院29診療科の自科紹介スライドを上映しました。

1診療科2分の持ち時間でしたが、コンパクトに練りこんで作った内容のスライドで、各診療科の診療内容、特徴がまとめられており、患者様をご紹介頂く際の参考になったと考えます。一部動画があり緊張感あり楽しんでいただけたのではないかと思います。

スライド上映後、会場からCOVID-19の治療について、後遺症の際の紹介先、胆石症例の診療体制について質問がありました。COVID-19の後遺症は総合診療科にご紹介ください。胆石症は可能であれば緊急で手術を行います。COVID-19による診療抑制の影響で待機手術になった症例もあります。抗血栓療法中などで外科的治療ができない場合など、外科と内科で相談しながら診療を行っていますので、どちらに紹介いただいても対応いたします。当院の特徴として各科の垣根がなく、すぐに様々な科と相談できるということがありますので、いつでもご紹介ください。

これまで多くの患者様をご紹介頂き、皆様のおかげでわが愛媛県立中央病院は多くの患者様の診療にあたることができいております。重ねて御礼申し上げます。これからも引き続き当院をよろしくお願い申し上げます。

今回開催されました各診療科のスライドを、7月（前半）・8月（後半）に分けてご紹介したいと思います。今後ご紹介の参考になればと考えております。





麻酔科

スタッフ紹介

常勤 15名

藤谷 太郎 (副院長)
 中西 和雄 (主任)
 奥田 康之 (サポーター)
 矢野 雅起 (集中治療)
 入澤 友美
 武田 泰子 (ペイン)
 品川 育代 (小児麻酔)
 程野 茂樹



非常勤 6名

高石 和
 土手 健太郎
 清水 智恵子
 鍋田 多恵子
 越智 貴紀
 原田 知美

常勤医の専門医資格

日本専門医機構認定 麻酔科専門医 6名
 日本麻酔科学会認定 指導医 6名、専門医 4名
 集中治療専門医 2名
 区域麻酔指導医 2名
 ペインクリニック専門医 1名

産婦人科

産科部門の紹介

県内唯一の総合周産期母子医療センターの産科部門として、24時間、365日、緊急搬送に対応しています。夜間休日の超緊急帝王切開においても、新生児内科・麻酔科などとの緊密な連携のもと、15分以内に児を娩出できる体制を整えています。



当院の麻酔科診療

- 安全な麻酔管理を目指して
 - 術前外来での麻酔診察や入院サポートセンターと連携した術前リスク管理
- 術後経過の改善や早期離床のために
 - 早期回復プログラム
 - 神経ブロックなどによる多角的鎮痛法を用いた痛みの緩和
 - 集中治療室での術後管理
- 重症例の予後改善を図る
 - 院内で発生した重症例の集中治療
- 難治性の痛みを緩和したい
 - 院内紹介患者を対象とした、癌性や良性の難治性の痛みの治療

婦人科部門の紹介

婦人科良性腫瘍においては、その多くを腹腔鏡下手術や子宮鏡下手術で行っており、手術を受ける患者さんの負担の軽減、入院期間の短縮をはかっています。悪性腫瘍に関しては、外来化学療法を積極的に取り入れ、患者さんのQOLに留意した治療を行っています。

2021年主な婦人科手術件数

手術名	症例数
腹腔鏡下手術	191
子宮鏡下手術	28
子宮全摘術(腹-鏡式)	47
膣膣付置術	26
子宮頸手術	12
円錐切除術	14

2021年入院を要した主な婦人科疾患

疾患名(ICD10準拠)	患者数
子宮筋腫	308
子宮腺筋症	19
子宮内膜ポリープ	53
卵巣腫瘍	188
卵巣がん	87
子宮体がん	6
子宮頸部高度異形成	37
性器脱	36
異所性妊娠	42
絨毛性疾患	15
骨盤臓器炎	6



2021年度の診療実績

麻酔科管理手術：4680例

心臓血管外科 : 388例
 呼吸器外科 : 151例
 脳神経外科 : 225例
 小児(6歳以下) : 197例
 産科(帝王切開) : 320例

緊急手術：1010例
 臨時(待機緊急)手術：345例

ドクヘリ搬送、多発外傷、産科や心外などの超緊急手術の麻酔にも対応しています。

ICU入室症例数：1779例

ペインクリニック内科外来のべ受診者数：1923人
 (新患70例)

産婦人科スタッフ



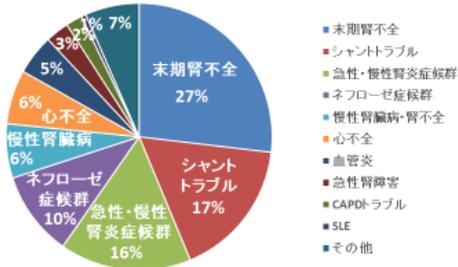
いつもたくさんのお客様にご紹介いただき誠にありがとうございます。新型コロナウイルスや世界情勢など、先行き不透明な状況が続きませんが、これからの愛媛県の産婦人科医療の一助になるよう努めて参ります。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



腎臓内科

腎臓内科

2021年入院患者数 350人



診療目標： 末期腎不全への進行抑制
腎臓病患者の生命予後改善

泌尿器科



業務紹介（対象とする泌尿器科疾患）

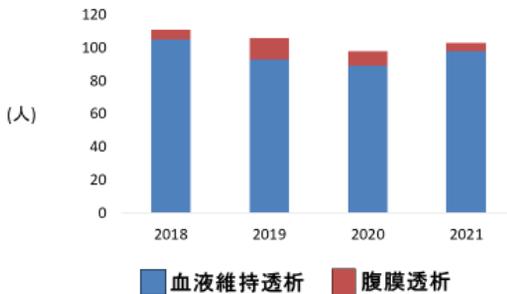
- ・保険診療でカバーしているほとんどすべての泌尿器科疾患に対応可能⇒ ED等は治療していない
 - ・現在8人で年間延べ26000の外来、1400人の入院、ロボット支援手術170件を含む800件の手術 500件以上の検査を行っている。
- 一般泌尿器科（癌 尿路結石 前立腺肥大 尿路感染等）以外に

- 小児泌尿器科（尿道下裂等）
- 婦人泌尿器科（骨盤臓器脱 腹圧性尿失禁）
- 腎不全外科（腎移植 PDカテーテル シャントなど）

医療連携研究会2022泌尿器科

腎臓内科

新規透析導入患者数



愛媛県 新規透析導入患者数 約450~480人/年
県内の透析患者の約1/4が当院にて導入

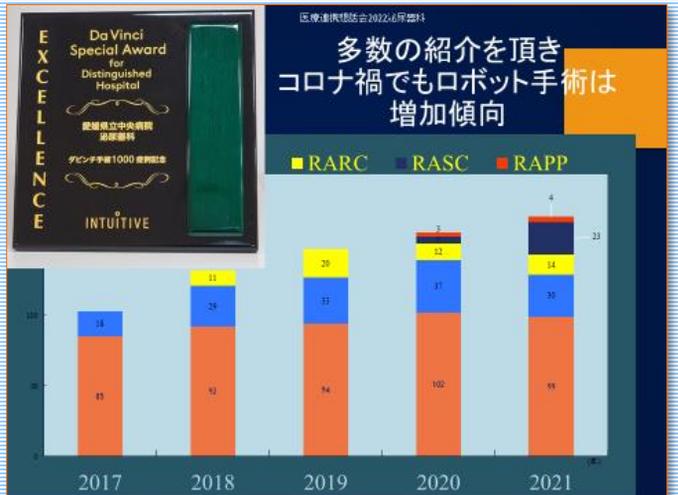
当院泌尿器科の特徴と今後の方向性

- ・単一医局ではない徳島6人 愛媛4人で構成。
- ・多様性？を尊重しつつ **1チーム** で診療。医局が異なることの **シナジー効果** はありそうだ。
(個人の意見です)
- ・スタンダードな通常診療と高度な医療も提供できている
(個人的主観です)
- ・ゆりかごから墓場手前まですべてのライフステージで人生をささえる泌尿器科診療を提供する
(私の理想が入っています)

医療連携研究会2022泌尿器科



腎臓専門医 4名





糖尿病・内分泌内科

糖尿病・内分泌内科

A. スタッフ構成

1. 主任部長: 戎井 理 1988年愛媛大学医学部卒業
2. 部長: 大野敬三 1991年自治医科大学卒業
3. 部長: 宮内省蔵 1993年愛媛大学医学部卒業
4. 部長: 明坂和幸 1999年愛媛大学医学部卒業
5. 医師: 渡部杏子 2004年愛媛大学医学部卒業

B. 外来診察体制

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1診察室	戎井	大野	渡部	戎井	大野
2診察室	明坂	宮内	明坂	宮内	渡部

C. 甲状腺エコー

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前				○	
午後	○	○	○		○

D. 甲状腺エコー下針細胞診

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前					
午後			○	○	

消化器内科

愛媛県立中央病院 消化器内科

2022年度目標

・医療レベルのさらなる向上

医療レベルをさらに向上させ、愛媛県内のみならず、全国的にもトップレベルの診療ができるように診療のレベルアップを目指します。

・医療安全の推進

リスクを伴う処置、治療が多いため、各人の医療安全意識の向上に努めるとともに、医療事故の発生確率を低下させるシステムづくりを医療スタッフと共に推進します。

・医学的エビデンスへの貢献

当院の診療経験で得られた知見をガイドライン作成に貢献できるような学術論文として継続して報告していくことで、自らの医療レベルの継続的振返りを心掛けて日常診療へフィードバックを行います。

当科の役割

- 1.体系的な糖尿病教育
- 2.糖尿病患者さんの病態に応じた治療方針の決定
- 3.食事療法、運動療法の指導
- 4.インスリンや血糖自己測定の手技指導
- 5.細小血管障害、大血管障害に関する定期的な精査
- 6.内分泌疾患の診断と治療
- 7.他科入院中の糖尿病患者の血糖コントロール

検査・処置件数、入院疾患（2021年）

検査・治療・手術名	件数	検査・治療・手術名	件数	疾患名	患者数
上部消化管内視鏡検査	5,024	EMR	813	食道炎	55
下部消化管内視鏡検査	2,077	ESD	144	食道静脈瘤	24
食道静脈瘤硬化剤、硬化剤	48	内視鏡的止血術	144	胃潰瘍	22
内視鏡的止血術(上部消化管)	35	内視鏡的止血(コラーゲン)	235	胃癌	121
内視鏡的止血術(下部消化管)	32	胃内視鏡的止血術(ESD)	47	膵臓がん	15
上部消化管内視鏡検査	9	胆膵造影検査	5,818	膵臓炎	11
内視鏡的止血術	34	胆膵造影検査(ERCP)	6	膵臓がん	26
内視鏡的止血術(コラーゲン)	756	胆膵造影検査(ERCP)	6	膵臓がん	153
内視鏡的止血術(コラーゲン)	19	胆膵造影検査(ERCP)	113	膵臓がん	77
内視鏡的止血術(コラーゲン)	19	胆膵造影検査(ERCP)	73	膵臓がん	11
内視鏡的止血術(コラーゲン)	61	胆膵造影検査(ERCP)	26	膵臓がん	20
内視鏡的止血術(コラーゲン)	69	胆膵造影検査(ERCP)	8	膵臓がん	169
内視鏡的止血術(コラーゲン)	66	胆膵造影検査(ERCP)	20	膵臓がん	94
内視鏡的止血術(コラーゲン)	40	胆膵造影検査(ERCP)	6	膵臓がん	129
内視鏡的止血術(コラーゲン)	66	胆膵造影検査(ERCP)	2	膵臓がん	23
内視鏡的止血術(コラーゲン)	4	胆膵造影検査(ERCP)	12	膵臓がん	12
内視鏡的止血術(コラーゲン)	34	胆膵造影検査(ERCP)	169	膵臓がん	169
内視鏡的止血術(コラーゲン)	14	胆膵造影検査(ERCP)	46	膵臓がん	46
内視鏡的止血術(コラーゲン)	24	胆膵造影検査(ERCP)	40	膵臓がん	40
内視鏡的止血術(コラーゲン)	460	胆膵造影検査(ERCP)	219	膵臓がん	219
		合計	3,704		





消化器外科

呼吸器内科

消化器外科



スタッフ 18名

原田雅光 椿雅光 大谷広美 吉山広嗣 八木草彦 渡邊常太
古手川洋志 發知将規 佐藤公一 花岡潤 上野義智 渡部美弥
大畠将義 石川大地 徳田和憲 神崎雅之 沖川昌平 武原悠花
専攻医 5名

足田貴大 溜尾美咲 加洲範明 松木ひかり 大野拓也

呼吸器内科の対応疾患



全国DPCランキング(2020年度)

愛媛県内では症例数、
在院日数とも1位

(82大病院含む)

	症例数	在院日数 (合併症率)
上部		
腹腔鏡下胃切除術DG	14位	18位
腹腔鏡下胃切除術TG	77位	13位
上部消化管穿孔	34位	3位
肝臓		
肝癌(区域切除まで)	14位	1位
肝癌(2区域以上)	50位	1位
膵癌(PD、DP)	34位	3位
胆管、胆嚢癌(PD、肝切)	20位	1位
腹腔鏡下胆嚢摘出術	4位	36位
腹腔鏡下結腸切除術	7位	22位
下部		
腹腔鏡下直腸切除術	29位	119位
虫垂切除術(膿瘍有り)	2位	105位
鼠径ヘルニア	16位	345位

呼吸器内科よろしくお願いします



当スタッフの専門資格

総合内科専門医・指導医 呼吸器専門医・指導医 呼吸器内視鏡専門医・指導医
アレルギー専門医・指導医 救急専門医 感染症専門医・指導医
がん薬物療法専門医 結核・抗酸菌専門医・指導医

最後に

- 近年では手術制限の影響にて、特に良性疾患の手術にてご迷惑をおかけしており、お詫び申し上げます。
- 皆様よりたくさん症例をご紹介いただき、このような成績を残すことができました。
- 今後とも信頼され選んでいただける消化器外科となるため、更に研鑽を重ねていきます。





乳腺・内分泌外科

乳腺・内分泌外科

診療方針

適切な検査をおこない、正確な診断を心がける
ガイドラインに準じて個々に適した治療をおこなう

対象疾患

- 乳腺（乳癌、良性腫瘍、乳腺炎（化膿性、肉芽腫性））
- 甲状腺
 - （甲状腺癌、良性腫瘍、パセドウ病（内服治療困難）
 - 慢性甲状腺炎（びまん性腫大）
- 副甲状腺（副甲状腺癌、原発性副甲状腺機能亢進症）

乳腺・内分泌外科@医療連携懇話会2022/6/8

放射線科

放射線科

●画像診断 Diagnostic Radiology, 画像下治療 Interventional Radiology (IVR)
●放射線治療 Radiotherapy

- ◆中四国有数のスタッフ数：常勤医師15名、診療委託医師11名
専門資格：放射線診断専門医、放射線治療専門医、IVR専門医、核医学専門医、PET核医学認定医、検診マンモグラフィ読影認定医 等
- ◆多種多様なモダリティに対応した正確で質の高い画像診断
X線、CT、MRI、PET-CT、RI(核医学)、マンモグラフィ、消化管透視 など
- ◆患者様のQOLを重視した低侵襲で最先端の放射線治療
一般照射、定位放射線治療、IMRT など
- ◆より低侵襲な血管系・非血管系IVR（インターベンション）は
救急時にも迅速に対応

地域医療連携室を経由した他院からの種々のご依頼も
迅速かつ丁寧に対応し、様々な高度医療機器や技術を駆使して
地域医療を診断・治療の両面から支えます。

スタッフ紹介



患者さんのために働く
プロフェSSIONALの集団です

乳腺・内分泌外科@医療連携懇話会2022/6/8

2021年度診療実績

画像診断

- CT：28216件（頭部 2630、躯幹部 24634、心臓 818、全身外傷 134）
- MRI：10907件（頭部 4742、躯幹部 6165）
- PET：2636件（FDG 2583、心筋Aアムニオア 53）
- RI(核医学)：914件（脳血流 139、心筋 376、骨・その他 378、RI治療 21）
- 消化管透視：240件（食道胃十二指腸 63、小腸 40、注腸 137）
- マンモグラフィ：2484件

IVR

- 血管系IVR：351件*（TAE・肝TACE他 219、シャントPTA 132）※うち緊急53件
- 非血管系IVR：96件（CTガイド下生検 58、ドレナージ他 38）

放射線治療

447件 ※うち肺癌定位14,IMRT75,全身照射8

最後に

- ・毎日、専門医が2診体制で外来をおこなっています
 - ・紹介いただきたい具体的な患者さん
 - 乳房の異常を訴えられる方（しこり、乳首のただれ、血性乳頭分泌）
 - 乳癌検診で異常を指摘された方
 - 甲状腺のしこり
 - 頸部US（頸動脈USなど）で甲状腺腫瘍
 - パセドウ病で内服治療中、コントロール不良、内服薬で副作用ある
 - 慢性甲状腺炎で甲状腺腫大が著明になった
 - 骨粗鬆症、尿管結石を繰り返す、採血したら高Ca血症、PTH高値の方
- 一紹介を迷う患者さんも、まずはご紹介下さいー

乳腺・内分泌外科@医療連携懇話会2022/6/8

放射線科スタッフ



今後も質の高い診断・治療をご提供できるよう、
スタッフ一丸となりがんばります！



脳神経外科

循環器内科

脳神経外科 診療分野

脳血管障害		脳腫瘍		頭部外傷
出血性	虚血性	良性腫瘍	悪性腫瘍	急性硬膜外血腫 急性硬膜下血腫 脳挫傷 慢性硬膜下血腫
くも膜下出血 脳出血 もやもや病 未破裂脳動脈瘤	血行再建術を要する 脳梗塞 内頸動脈狭窄症	髄膜腫 神経鞘腫 下垂体腺腫	神経膠腫 悪性リンパ腫 転移性腫瘍	
脊椎・脊髄		機能性疾患		小児
脊髄腫瘍 椎間板ヘルニア 脊柱管狭窄症 後縦靭帯骨化症		顔面けいれん 三叉神経痛		水頭症 脊髄腫瘍

脳神経内科とともに
脳卒中センターとして診療

様々な施設認定 1

ロータプレート エキシマレーザー レーザーリード抜去

TAVI Mitra Clip

治療方法

開頭顕微鏡下手術	血管内手術
内視鏡手術	放射線・化学療法

様々な施設認定 2

ダイヤモンドバック インペラ

PFO閉鎖術 WATCHMAN FFR-CT

脳神経外科 スタッフ

部長 藤原 聡	部長 瀬野 利太	専攻医 早川 あかり	部長 松本 謙	部長 古川 浩次	医長 柴垣 優一
部長 市川 晴久	部長 福本 真也	脳卒中センター長 大上 史朗	主任部長 右田 真治	部長 尾上 信二	

循環器内科の3本の矢

第一の矢
救急医療

第二の矢
ハートチーム

第三の矢
高度医療

⑤「リスクマネジャーのつぶやき」

医療安全管理部 森山 昭子

シェアード・ディジションメイキング

医療安全というと強制的、威圧的と感じる方も多いかもかもしれません。当たり前のことを当たり前にするのだろと言われる方もいるかもしれません。

そう、医療安全は当たり前のことなのです。

「普通に生活していた方が病に侵され患者になる。医学を学んだ方が医師になる。そして患者と医師が対話しながら、病と闘う」対話って大切ですよ。

シェアード・ディジションメイキング（協同的意思決定）は「比較的対等な立場で話し合いを通じて診療の目的や内容を設定する。医師は、対話により患者の背景・価値観を十分理解し、共に意思決定を行う」という意味です。医師と患者の関係で最も好ましい姿と言われています。

みなさん、五感を使って患者さんを診察し、その人に合わせた言葉を選んで情報を提供して、病氣と闘えるようそっと背中を押してあげてくださいますか？

コミュニケーションエラーで心を傷めないように<m(_)_m>

互いにより良い関係性を目指して(^_^)



⑥地域医療連携室からのお知らせ

今後各種ご案内やお知らせ（医療連携懇話会案内・地域連携室便りなど）はメール配信を推奨させていただきたいと考えております。他、県立中央病院ホームページのタイムリーな更新情報も順次配信予定です。メールでの配信を希望される医療機関様につきましては、お手数ですが、下記メールアドレスへ医療機関名を記載し、送信をお願いいたします。



ご意見

ご希望

<件名>メール登録（医療機関名）<本文>・医療機関住所、電話番号

E-Mail : c-renkei@eph.pref.ehime.jp

メールのご登録で…

医療連携懇話会の
動画配信が
ご覧いただけます！



動画配信
3つの
ポイント！



①
お好きな
時間に



②
繰り返し
再生！



③
3密
回避



お問い合わせ

愛媛県立中央病院 地域医療連携室 <担当>濱田・三好



TEL : 089-947-1111(代) FAX : 089-987-6271 E-mail : c-renkei@eph.pref.ehime.jp

次回第117回医療連携懇話会のお知らせ

令和4年8月10日(水) 19:00~20:10

<テーマ>

「病状の悪化が予測される中、患者・家族のより良い療養の
在り方を共に考える～意思決定支援にどうかかわるか～」

<座長> 愛媛県立中央病院 副院長 中西 徳彦

<演者> 愛媛県立中央病院 呼吸器内科 がん治療センター長 森高 智典

愛媛県立中央病院 呼吸器内科 病棟看護師 島内 智子

愛媛県立中央病院 地域医療連携室 MSW 小笠原 佑記

いろはホームケアクリニック 飯森 俊介 院長

あおぞらの里 森松ケアアブラセンター 永井 幸子 介護支援専門員

<リンク先> 愛媛県立中央病院ホームページ

お申込・詳細は[こちらから Click!](#)



媛さくらネット

地域医療連携ネットワークサービス 媛さくらネット

<現在閲覧できる項目>

閲覧
無料

- ・処方・注射・検体検査・病名
- ・画像（放射線、エコー、生理検査）
- ・循環器動画・放射線画像診断レポート

閲覧項目
随時追加予定

<リンク先>
愛媛県立中央病院ホームページ

詳しくは[こちらから Click!](#)



地域連携室便り

次回8月号(No.27)は
8月中旬頃刊行の予定です。
お楽しみに！